

日本原水協FAXニュース

発行:原水爆禁止日本協議会 電話:03-5842-6031
FAX:03-5842-6033 Eメール:antiatom55@hotmail.com

2012年
1月31日
No.57

3・1ビキニデーへ期待高まる

●福島原発事故被災者、友人と2人で国際交流フォーラムから参加—神奈川

神奈川では、2012年3・1ビキニデーへの積極的な受け止めが相次いでいます。生協労組からはすでに申込みがありました。近年、代表を派遣できていない全労連・全国一般県本部は、今年は派遣しようと議論を始めています。「1954年当時、三崎港のマグロ漁船も被災したということもあるが、福島原発事故後最初のビキニデーということで、新たな決意で運動をしなければいけないという認識が広がっている」と事務局長の笠木さんは語っています。

また、原発事故後、福島県から川崎市に避難されている方から、福岡の友人と2人で国際交流フォーラムから参加したいとの問い合わせが日本原水協を通して県原水協にありました。福島に住んでいた当時から感じていた漠然とした不安が現実のものとなり、東電や政府へ怒りを抱いていたところ、知り合いから借りた大石又七さんの本を読んでビキニデーのことを知ったそうです。

●魅力ある青年分科会へ活発に討論—Ring! Link! Zero! 実行委員会

1月27日、核兵器をなくす青年交流集会 Ring! Link! Zero! 実行委員会は、今年最初の会議を開きました。全国理事会議案で提起されたウィーンでのNPT再検討会議第1回準備委員会にあわせた原爆展のよびかけが好評で、創意工夫をこらして、原爆展や被爆体験を聞きとる会を開こうと活発に意見交流をおこないました。ビキニデーに向けては、青年分科会である第8分科会「ビキニ事件と原水爆禁止運動を学ぼう」の成功のため、分散討論のグループリーダーの組織をすすめることを確認しました。

●パンフ学習をととして代表派遣へ—東京都学連

東京都学生自治会連合が事務局を務める、原水爆禁止世界大会東京学生ツアー実行委員会は1月22日、大会報告会を開きました。大会DVDを鑑賞し、東京学生ツアーのあゆみを振り返った上で、核兵器に関わる情勢学習を行いました。日本原水協の梶原事務局員が3・1パンフにそって講演。2010年NPT再検討会議や昨年国連要請に参加した学生も交えて、学園でどう取り組みをすすめるか意見交流をおこないました。

「生協の活動をしていた母に、子どもの時に平和行進に連れられて以来、はじめて平和や核兵器に触れた。こういう機会をもっと欲しい」「普段の学生生活で平和の問題に触れないので、それぞれの学園で少人数でもいいから学習会を開きたい」などの感想が出され、パンフを使った学習会の重要性が強調されました。東京都学連は、大会や新歓準備のため、都学連として参加できていなかったビキニデーに代表を派遣するよう、前向きな検討をすすめています。